

## 4 回生スタジオコース作品 *Students' Works : 4th Year Studios*

### 田村 太久人

Takuto TAMURA

14

#### 太田市美術館図書館

*Art Museum & Library, Ota*

私は、風俗化した駅前の光景を目のあたりにして、すっかり考えこんでしまいました。どのような建築を建てるべきかわからず、途方にくれました。空間は生まれました。力強い地下空間です。この空間が本とアートの力をかりて、太田の街を耕します。この空間は豊かな街を育む土壌となるでしょう。

### 小西 泰平

Taihei KONISHI

16

#### 駅前タワーマンション考 — 街の人が「利用」できる「空間」としての公開空地の設計

*Consideration of high-rise apartment buildings around stations: The design for the available "Public Open Space"*

駅前タワーマンションは、街に多大な影響を与える。その中でも、街の人に開放された部分である公開空地に着目し、現状の『ただの「公開」された「空地」』に対し、『街の人が「利用」できる「空間」』としての公開空地を提案する。人々の居場所と大規模緑化を立体的に展開し、街のランドマーク・駅の玄関口・オープンスペースとして機能することで、街により良い影響を与える建築を設計した。

### 高山 夏奈

Kana TAKAYAMA

18

Here was lake, is land, and will be lake and land. — 「土地を減らす」という埋立地の水辺再開発を考える

*Here was lake, is land, and will be lake and land: Backfilling filled-ground*

目的を果たしたあとの広大な埋立空き地について考えるプロジェクト。敷地である滋賀県浜大津もその一つである。戦前から繰り返行われた湖岸の埋立地は幅 200 m 長さ 3 キロに及ぶ。この埋めすぎた土地を減らす、つまり湖に戻し、湖と街とを繋ぐように図書館コンプレックスを設計した。

### 間山 碧人

Aoto MAYAMA

20

#### 正親小学校 4.0

*Seishin Elementary School 4.0*

京都市上京区に位置する正親小学校。一時は児童が 1000 人を超えていたが、今は 160 人ほどである。少子高齢化が進む中でも存続している、この小さな小学校を地域の拠点としながら、学校機能の維持について考える。

# gravure

## 平田スタジオ Alternative Ota

HIRATA Studio

建築家には、すでにそこにあるものを超えて、つまり先入観を超えて、新しいリアリティを構想する能力が求められる。太田市美術館・図書館は、2013年に原案が構想されてから、6年以上が経過しているわけである。現在の地点から、フレッシュな視点を通して、全く違ったオルタナティブを構想すること。若い観察眼と構想力を生かした、力強い案を期待している。

昭和に取り残されてしまったような、小さな建物が並ぶ駅前に美術館と図書館を計画する。そこでこのプロジェクトでは地上に大きなボリュームは作らず地下空間を利用するという素朴な考えを元に始まった。そんな優しい考えとはうらはらに、地下に現れた空間はダイナミックで緊張感のある遺跡のようである。丁寧に設計されたスケールの変化する空間には抑制された光のみが差し込み、深い思考へと促す。遠い昔に沈んだ沈没船のように、横たわり続ける建築である。

## 柳沢スタジオ 駅前タワーマンション

YANAGISAWA Studio

近年増加している、駅前タワーマンションを対象に、事例調査・フィールドワークを元にその問題点や可能性を検討し、オルタナティブを構想する。

多くの大規模開発された街で同じような都市景観が生産され続けている。このプロジェクトはそんな「同じような」を逆手に取り新たな都市空間を大胆に生んでみせた。どこにでもある駅前のタワーマンションに共通する要素を抽出し、その要素の持つ潜在的な価値を最大化するケーススタディを行なったのである。各手法は明快かつ効果的で、駅前タワーマンションはあたかも公共建築のように変化した。より小さなスケールでの設計に疑問は残るものの、示唆に富んだプロジェクトである。

## 神吉スタジオ 場所の力

KANKI Studio

これまでにない変化をみせる現代の都市・地域で、どのようなランドスケープが受け継がれ創造され得るだろうか。新しいランドスケープにむかうために、場所に潜む力を読み、その力を顕在化させる建築と都市・地域空間の提案をめざす。各人が選ぶ敷地およびその位置する都市・地域の「場所の力」の読解作業を重視しつつ進める。敷地は、全員参加でそれぞれの現地調査に赴くため、京都から日帰り可能圏内とし、自由に選ぶ。

埋め立てにより「場所の力」が失われた敷地に対し、土地を減らすことで敷地が秘めていた場所の力を発掘し、水辺と屋根の豊かな設計により新たな場所の力を付加することに成功している。また湖岸、街、ユーザーそれぞれに対して丁寧に整理を行い、単一的でない風景と価値を創出している。ばたばたとした屋根による空間のバリエーションをこれだけ示すことができたことも評価でき、とりわけ屋根の下の屋内空間と屋外空間のバランスは非常に魅力的である。

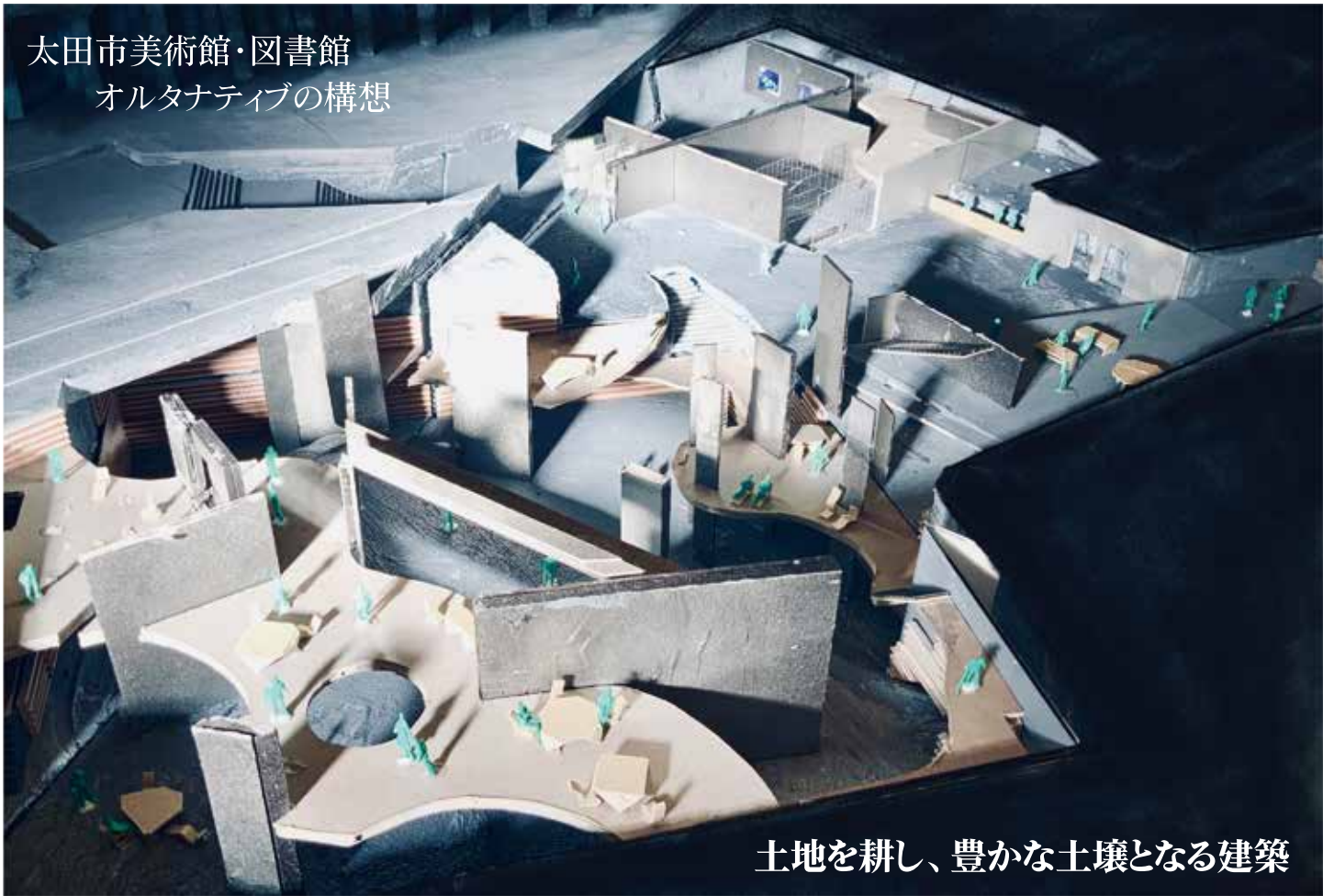
## 吉田スタジオ 地域施設 4.0、その先へ

YOSHIDA Studio

少子高齢化と人口減少が始まり、公共・民間の境界もはっきりしなくなった昨今、どのような施設がローカルな地域に新しく必要とされるのだろうか。ほかのまちと同じ仕様では「使えない」だろうし、うしろ向きの未来を語っても夢がない。ソフト・利用・運営の仕方などの新しいあり方にも依拠した刺激的な空間で、建築・施設・地域のあたらしい未来を展望してほしい。

地域に根差す小規模小学校の在り方を魅力的に解いている。まず、部屋のグラデーションに始まる。教室を中心に、地域コミュニティに開放される特別教室を周辺道路との関係からバランス良く配置した。そこへ大学生の下宿を織り込む。地域住民とは、近隣の高齢者だけを指すのではないのだ。それらをまとめ上げるのが立体街路である。現代問題視される関係者以外の立入領域をうまくコントロールし、折り合いをつけている。全体のバランスがよくとれた作品である。

太田市美術館・図書館  
オルタナティブの構想



土地を耕し、豊かな土壌となる建築

敷地は群馬県太田市の駅北側である。要求された機能は美術館と図書館を含む文化複合施設。  
通常駅前の空間は、人の行き交いが多いことから、消費活動の場にあてられる。デパートや商店街、飲食店などが建ち並ぶのがよくある駅前の光景だ。今回はあえてこのような敷地に、消費活動とは無縁な文化の空間を提供する。  
この場所だからこそ、創ることのできる文化的な空間があるはずだ。  
街と文化、そして建築が強力に結び合わされた美術館・図書館を提案する。



土壌となる地下空間



平面図 GL-7500



平面図 GL-5500



断面図



敷地の周りの街の風景に目を向けてみる。小規模の昔ながらの商店がいくつも見られる。それらは、決して栄えているとは言えないけれども、穏やかで人間味に溢れる景観を生み出している。

注意してよく見てみると、店舗のファサードはとて不思議だ。例えば、「合カギとアトムの塗料の店」、「提灯と国旗を売る釣具店」など、一見でたらめな組み合わせの売り物の名が並ぶ。ただ、もちろんこれらはでたらめなんかではない。店を営む人々の職歴の変遷が、建築のファサードに刻まれているのだ。

私たちは、街の中にある、そのような人々の生きてきた歴史の片鱗が、ある種の温かみをそこに与えていることに気づく。

歴史の積み重ねが、文化を育む。ならば、文化的な空間を考えるヒントは、このような街のささやかな光景の中にあるのかもしれない。

大規模な都市開発が行われる中心街に、ささやかであっても、ここに生きる人々の歴史を感じられる空間はあるだろうか。



エントランス

人が生きるという営みが、時代をこえて、歴史として脈々と受け継がれて行くように、ある時間軸の中で建築が街の中で受け継がれ、愛されるようなあり方を目指す。

私の提案するオルタナティブは、美術館・図書館を、地下に埋めるというものである。

本とアートに満たされた地下空間は、文字通り、敷地を耕し、街を育む豊かな土壌として機能する。開発する開発する余地の残った地上レベルには、今後、文化的な空間を下地にして、これまでにない新しい街ができて行くだろう。街が育つという、時間軸をもった成長の過程で、美術館と図書館は、その出発点となり、この街の歴史の一端を担い、人々に愛され続ける。

そうなることを願って、設計を進めた。







# 駅前タワーマンション考

- 街の人が「利用」できる「空間」としての公開空地の設計 -

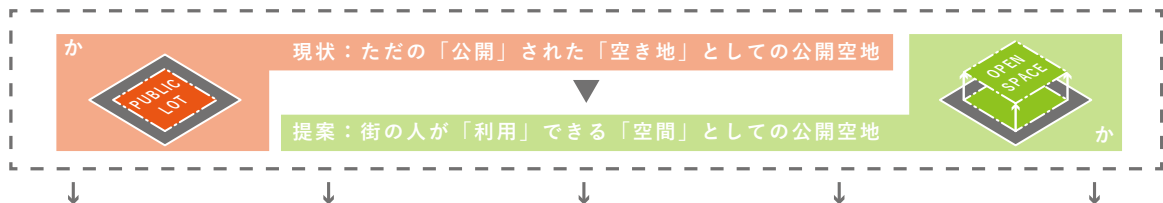
■ かたの設計：タワーマンションの公開空地のための新しい設計制度

## アーカイブから見出された「かた」

- ① 巨大な「VOLUME」
- ② 駅の「出口」
- ③ 平面的な「緑」
- ④ 私的な「軒」
- ⑤ 内向きな「ベンチ」

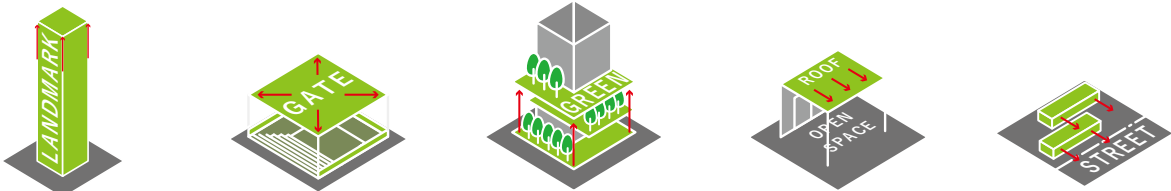


↓ 問題点やポテンシャルの再考



## ポテンシャルから見出された「かた」

- ① 街の「LANDMARK」  
街中からすぐ分かることが活きる公共機能を加え、容積率を上げる。
- ② 駅の「玄関口」  
駅出口をただの「出口」ではなく、駅の玄関口として設計する。
- ③ 立体的な「緑」  
公開空地を立体化し、大規模に展開された緑化を街に提供する。
- ④ 公的な「軒下空間」  
住人のみならず、街にも開かれた軒下空間を提供する。
- ⑤ 「座れる場所」  
街の人が訪れたときに、「気軽に座れる場所」を提供する。



↓ 各敷地へのかたの適用

- ex) 高層階の公開空地
- 地下広場
- 緑化テラス
- 軒下空間
- 大階段



■ かたちの設計：街のためのタワーマンション



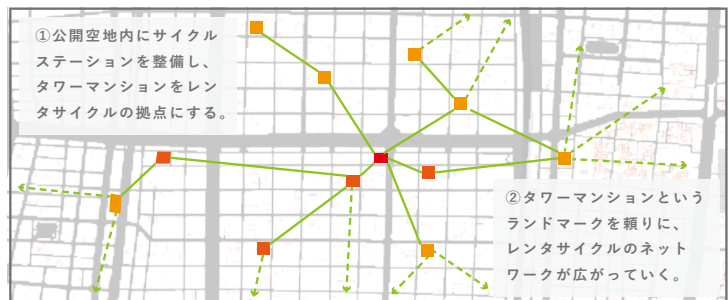
▼既存高さ



断面図

公共機能としてのレンタサイクル

市内のタワーマンションをレンタサイクルの拠点として整備する。



遠くから見える街の人の居場所

街の人は遠くから緑を見つけ、休む場所を求めてタワーマンションを訪れる。



立体的な緑化

平面に収まりきれない緑が街へ自然を提供し、ストリートレベルでの景観を良くする。



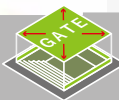
座れる大階段

訪れた人が緑の中で階段に座り、時にはステージになり、町の人々の居場所を展開する。



三角テラス

緑化されたテラスが、軒下空間を生み出し、人々のたまり場になる。



駅直結の地下広場

地下鉄駅につながる広場が町の人々の玄関口になり、「駅前空間」を創出する。



Here was LAKE, is LAND, and will be LAKE and LAND.

—「土地を減らす」という埋立地の水辺再開発を考える—



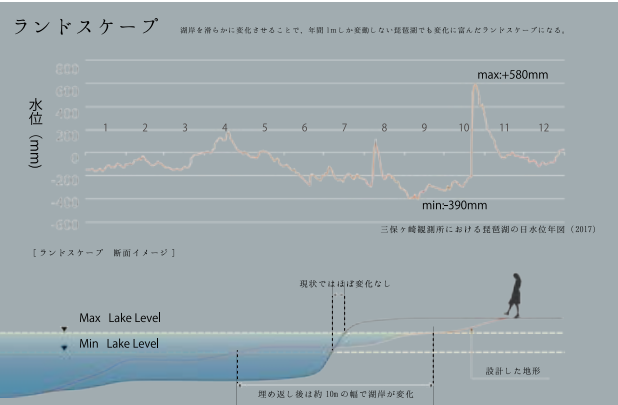
土地を減らすという新しい再開発

オリンピックや万博を始め、日本各地で埋立が行われている。しかし、イベントのために作られ、街と繋がりを持たない土地の寿命は短い。使い捨てられる埋立地をどうするかは今後、世界中で議論されるべき課題となるだろう。

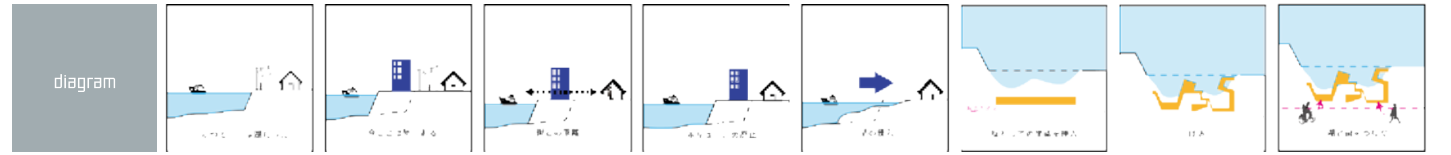
敷地である浜大津は戦前から1990年代まで数回に渡る埋立によって生まれた幅200m全長3kmにおよぶ埋立地の西端にあたる。西側は更地が多く、子供が駆け回るのに絶好の土地ではあるが、駅前でありウォーターフロントである場所としては、かなり閑散としている。1997年に京都市営地下鉄と浜大津駅が繋がったのを契機に、最高高さ約50mの琵琶湖ホテル、高さ約30mのシネコン(浜大津アーカス)が開業したが、現在はシネコンに入っていた商業施設のほぼ全てが撤退し、ゲームセンターが入ったため、湖岸側の窓には目張りがされてしまっている。

かつて、湖岸は街と繋がりが、生活と湖は物理的にも心理的にも近いものであったが、埋立地は数十年たっても未だに街と乖離し、人々を湖を遠ざけてしまった。この場所に「場所の力」を与えるため、余剰になっている埋立地を減らし、街の人々が湖岸に溢れていくような図書館コンプレックスを計画した。

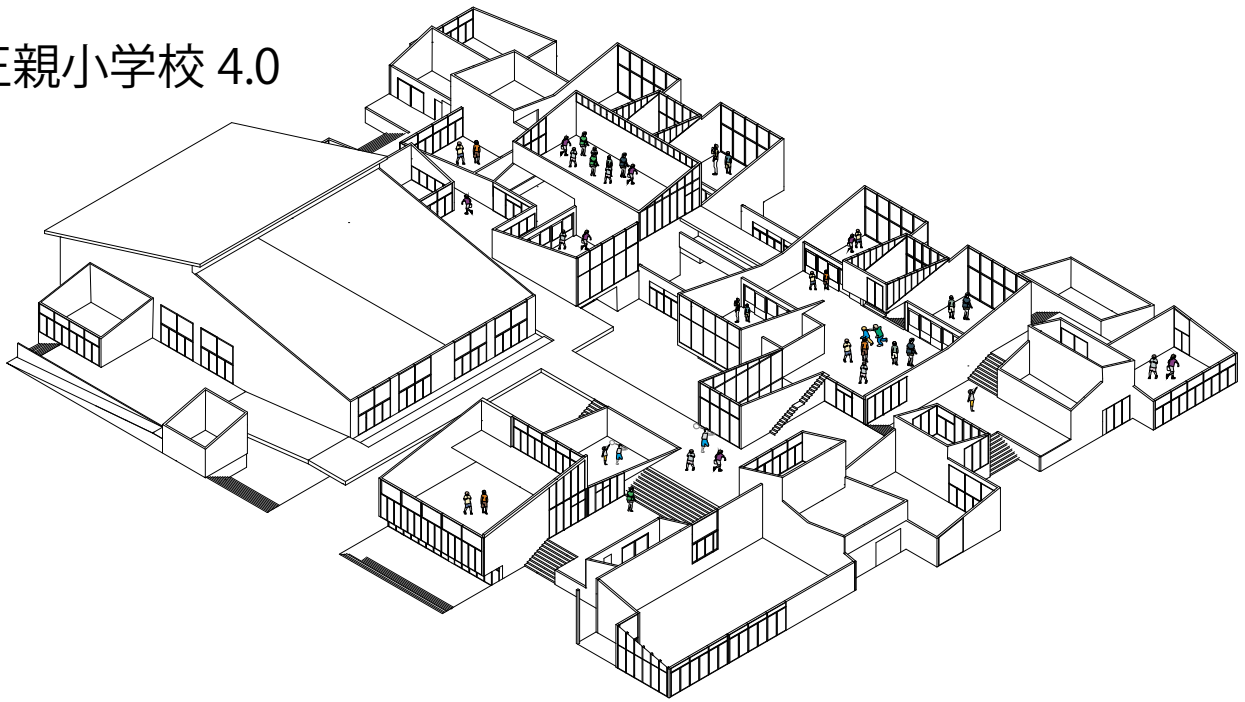
資産である土地を減らして街にひとつの価値を高めるという質的開発が、土地を増やすという量的開発で生じた埋立地の問題を解決してくれるはずである。







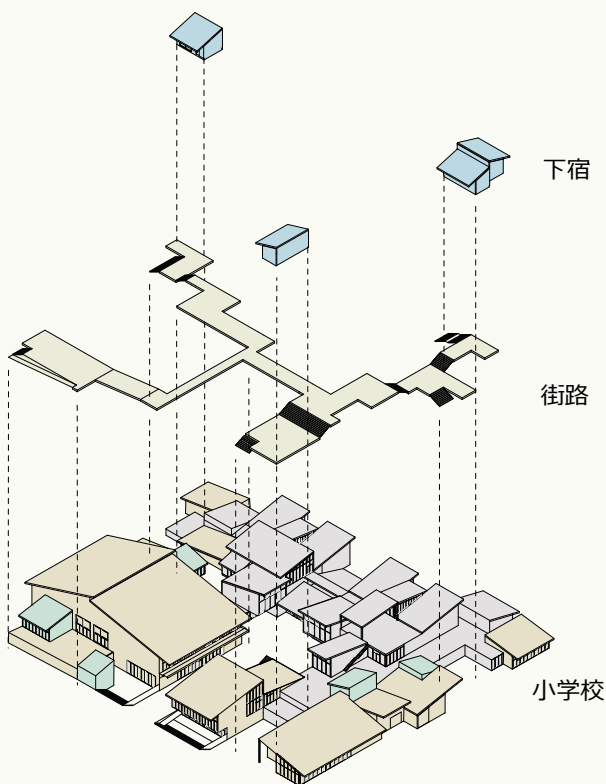
# 正親小学校 4.0



## Concept

京都市ではまちなかで跡地利用を考えずに次々と小学校が統廃合されてきた。そこでまちなかの小さな小学校が地域の拠点として活用されることで、統廃合せずに存続することを設計する。地域と関わる機会が多い高齢者だけでなく、あらゆる世代が利用できるように、地域と関わる機会がない大学生のための下宿先を併設した小学校を提案する。そして大学生が部活動の運営を行うことで、小規模小学校の教員の負担軽減にもつながる。また、道路側からも入れる特別教室は地域へ一般開放を行い、特別教室の近くに住む大学生がその教室での地域のイベントにも携わる。

## Diagram



図工室の向かいにある下宿



住民 : 工作が好きな大学生  
 小学校に対する役割 : 美術部の顧問  
 地域に対する役割 : 工房を利用して、地域の人がものづくりを行うサポートやギャラリーでの企画運営

音楽室の向かいにある下宿



住民 : 音楽が好きな大学生  
 小学校に対する役割 : 吹奏楽部、合唱部の顧問  
 地域に対する役割 : 地域のコーラスサークル、ピアノ教室を音楽室で行い、そのサポート

図書室の向かいにある下宿

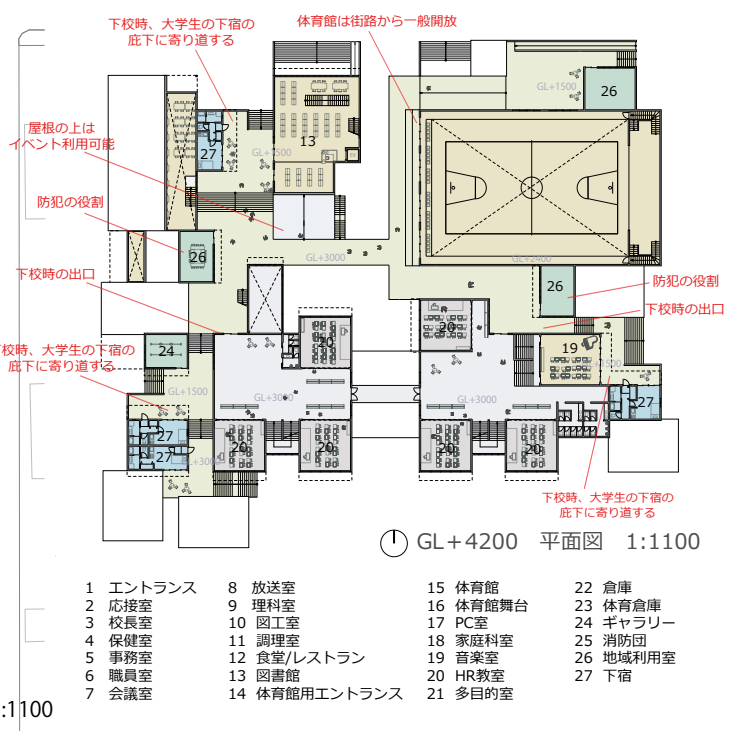
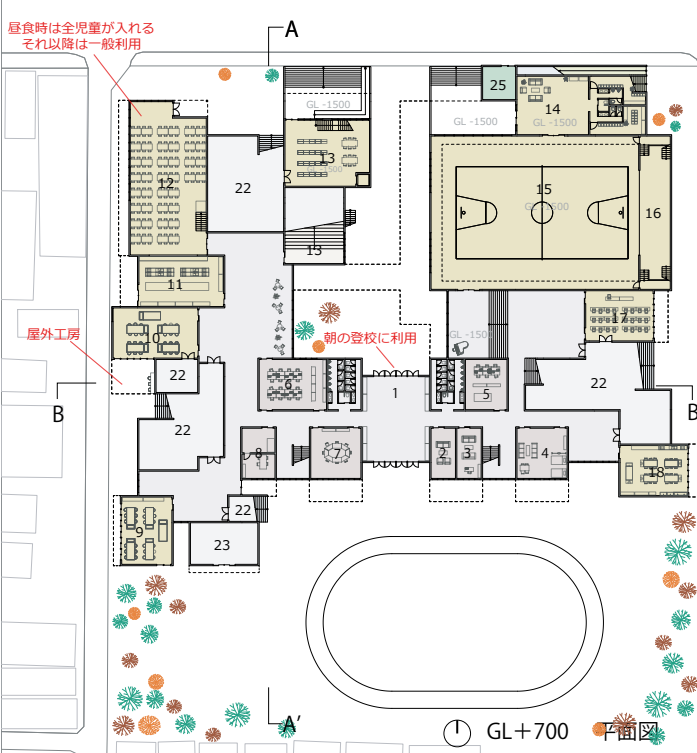


住民 : 勉強が好きな大学生  
 小学校に対する役割 : 子供に放課後勉強を教える  
 地域に対する役割 : 屋上のイベントスペースでの講演会などの企画運営

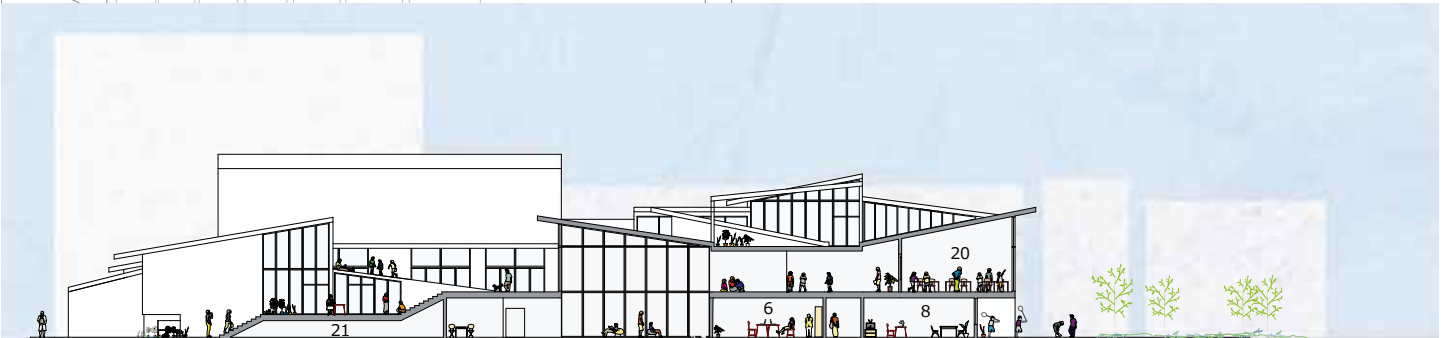
グラウンドの向かいにある下宿



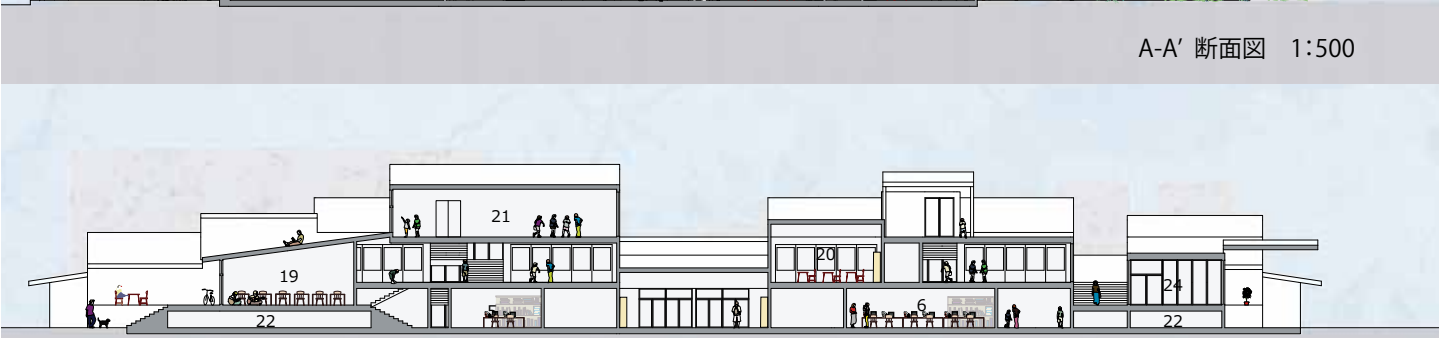
住民 : スポーツが好きな大学生  
 小学校に対する役割 : 運動部の顧問  
 地域に対する役割 : グラウンドを利用した夏祭り、運動会などの企画運営



- 1 エントランス 8 放送室 15 体育館 22 倉庫  
 2 応接室 9 理科室 16 体育館舞台 23 体育倉庫  
 3 校長室 10 図工室 17 PC室 24 ギャラリー  
 4 保健室 11 調理室 18 家庭科室 25 消防団  
 5 事務室 12 食堂/レストラン 19 音楽室 26 地域利用室  
 6 職員室 13 図書館 20 HR教室 27 下宿  
 7 会議室 14 体育館用エントランス 21 多目的室



A-A' 断面図 1:500



B-B' 断面図 1:500